



びわ湖会議の歩み

写真で見るびわ湖会議の歩み

すきとおるびわ湖を未来へ

「世界的にも貴重なびわ湖の水環境を守ろう」－行政も含めた県民ぐるみのせっけん使用推進運動が展開され、びわ湖会議の前身である「びわ湖を守る粉石けん使用推進県民運動」県連絡会議が結成されたのが昭和53年（1978年）。びわ湖会議はその後も県民の変わらぬ熱意を原動力に幅広い環境保全の取り組みを展開してきました。



「びわ湖会議」シンボルマーク
円の外周はびわ湖を抱く手、そして周囲の山々。内側の円は島々のイメージ。皆がびわ湖を守っている、ということを表現しています。

「びわ湖を守る粉石けん使用推進県民運動」 県連絡会議結成（1978年～1988年）

せっけん会議時代

びわ湖に毎日のように赤潮が発生するというショッキングな事態が起こり、それまで、各団体がバラバラに行っていた「せっけん使用運動」を、お互いの連携を密にして、更なる運動の盛り上げをねらって「びわ湖を守る粉せっけん使用推進県民運動」県連絡会議を結成。合成洗剤追放へ向けての住民運動をスタートさせたのです。

びわ湖（滋賀県）に関する動き・環境に関する動き

1972（昭47）

- 環境保護を目的とした国連機関「国連環境計画」（UNEP）が設立される
- 「琵琶湖環境保全対策」策定

1973（昭48）

- 絶滅のおそれのある野生生物の保護を目指す「ワシントン条約」が採択される
- 「琵琶湖環境保全対策本部」設置
- 彦根市沖に局部的赤潮

1977（昭52）

- 「県合成洗剤対策委員会」設置
- 「プランクトン異常発生対策連絡会議」設置
- 赤潮大発生
- 草津市の水道でカビ臭発生

びわ湖会議の動き

1978（昭53）

- 「びわ湖を守る粉石けん使用推進県民運動」県連絡会議結成



1978年
「びわ湖を守る粉石けん使用推進県民運動」県連絡会議結成

あおいびわ湖を守るため、「多少の不便があっても粉石けんを使おう」と広くアピール。「びわ湖会議」の歩みはここから始まりました。

1982（昭57）

- 学習啓発委員会、消費者活動部会、事業者活動部会を設置

1984（昭59）

- せっけんフェスティバルを開催
- 世界湖沼環境会議・LECS'84アベニューに参加
- フォーラム「水・愛」に参加

びわ湖（滋賀県）に関する動き・環境に関する動き

1978（昭53）

- 志賀町の養魚池で赤潮による魚のへい死事故発生
- 合成洗剤対策委員会「せっけん使用をすすめるべき」と提言

1979（昭54）

- 「とりもどそうざいびわ湖」をテーマに県民討論会開催

1980（昭55）

- 滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例施行
- 日本、多様な生態系を持つ湿地の保全を目指す「ラムサール条約」に加入

1981（昭56）

- 膳所公園でフナが大量死
- 琵琶湖条例1周年記念日県民集会

1982（昭57）

- 琵琶湖研究所が発足

1983（昭58）

- 南湖に初めてアオコが発生
- 学習船「うみのこ」就航

1984（昭62）



**1984年
せっけんフェスティバルを
開催**

せっけん普及に向けての初めてのイベント。せっけんのサンプルの配布や、せっけん商品の展示、洗濯機を使った実演などを大津市、彦根市で行いました。

- 「ふるさと滋賀の風景を守り育てる条例」（風景条例制定）
- 第1回世界湖沼環境会議開催（第1回世界湖沼環境会議に参加）



**1984年
世界湖沼会議・LECS'84
アベニューに参加**

大津で開かれた第1回世界湖沼会議と、その関連イベントとして開催された「LECS'84アベニュー」に参加。イベント会場は、県内各地から集められた水を飲み比べる「利き水」などの催しでにぎわいました。

1985（昭60）

- 平田川祭りに参加
- 語ろう！学ぼう！せっけん運動に参加
- せっけんフェスティバルを開催

1986（昭61）

- しゃぼん玉フォーラムを開催
- ミニせっけんフェスティバルを開催